

《資料館便り》

平成 27 (2015) 年

3 月号

石川町立歴史民俗資料館は、町の文化財保存と活用、町民の教育、学術及び文化の発展を目的に、昭和 49(1974) 年秋に開館しました。公的施設としては、県下のさきがけの一つです。

○「資料館便り」編集：発行 石川町立歴史民俗資料館
〒963-7845 石川町字高田 200-2 0247 (26) 3768

～終戦70年～荒川区から来館！

○今年で終戦70年。東京都荒川区は

戦時中の「集団学童疎開」が縁で、石

川町と友好関係にあります。2月中旬、荒川区東部町会の34名の皆様が来町されました。資料館では、石川地方の鉱物を見学し、また戦時中、「二号研究」にもなって足立や荒川にあった理化学研究所（理研）の工場がこの町に移転して来た事実（「ジルコン工場」）について説明を受けました。「学童疎開」だけでなく、工場の移転でも石川と関係のあった歴史に感銘を受けておられたようです。

↓ 鉱物を見学される荒川区の方々



石川町への「集団学童疎開」：太平洋戦争末期、昭和 19 (1944)

年 8 月から、荒川区第四峡田国民学校、同第三日暮里国民学校の児童 1200 名近くが集団疎開しました。受け入れは、町内の旅館に分宿でしたが、中でも母畑温泉がその中心でした。他に縁故による疎開児童も約 500 名もいました。当時の様子は「平和の誓い」（平成 8 年：町教委）や「石川町史 第二巻・第六巻」（平成 17・25 年：町史編集委員会）に詳しく記されています。

「二号研究」・「ジルコン工場」：戦時中の新型爆弾開発

研究と石川町の関係については、理研飯盛里安研究室と
その工場移転を中心に、「広報いしかわ 2014 年 8 月号」に紹介しました。また、「ペグマタイトの記憶」（平成 25 年：町教委・当館）には、当時の出来ごとが詳述してあります。町の図書室等でご覧下さい。

先人の知恵に感心！

○2月は、町内外から小学校3年生の見学が続きしました。「古い道具と昔の暮らし」の学習です。資料館では、収蔵しているさまざまな道具を見たり、触れたり、実際に使用してみたりなどして、学習を深めました。便利な



↑ 唐傘（番傘）の説明を真剣に聞く。

道具やモノのあふれる現在の生活とくらべてみると、大変に不便であったことが実感できたようです。しかし一方で、先人の知恵と工夫のすばらしさを知り、また、昔の店には貸出用の唐傘を置かれていたとの説明を聞き、当時の人々の助け合う心・思いやりの深さに感心していました。



← 昔のアイロン「熨（ひのし）」でハンカチのしわをのばす。